

変化に富み展望も良い大倉尾根からヤビツ峠へ

大倉尾根～塔ノ岳～三ノ塔

実施日 2014年7月12日(土)

天候 曇り

リーダー 伊藤 久雄

参加者 涌井良明、渋谷京子、伊藤久雄、石原勝正、宇野輝代、佐藤誠司 計6名

費用 JR2,020円 車680円

タイム 渋沢駅(7:50)大倉(8:05)雑事場ノ平(9:00)駒止茶屋9:45~9:50)戸沢分岐(10:35)花立山荘(11:10)塔ノ岳(12:00~12:25昼食)新大日(12:55)鳥尾山荘(13:50~13:40)三ノ塔(14:30)富士見山荘(15:35)ヤビツ峠(16:00~16:16)

超大型の台風が発生し実施が危ぶまれ前日には千葉県富津に再上陸。当日にはなんとかお天気も回復しほっとしましたが昨夜は熱帯夜、又早朝には地震が発生しあわや中止かと思われましたがなんとか実施する事ができました。

渋沢の駅からバスで大倉バス亭前で下車。そこから歩き始め暫くすると登山口に取り付く。

杉林の中をゆっくりと歩き始めるが湿気が多いせいか10分もしないうちに汗が流れ落ちてくる。

40分程で雑事場ノ平に着くがもう汗でびしょりである。ゆったりした尾根を少し行くと見晴茶屋がありそこから辺から整備された木



道もあるがガレ場が混じった歩きにくい木道になり暖急の坂を暫く登り駒止茶屋に着く。ここを過ぎたあたりから緩やかな歩きやすい登りになる。堀山の家を過ぎると又きつく歩きにくい木道の階段があり、ひたすら登ることになる。汗もだいぶかいたせいか滴り落ちるような汗は出なくなるがふと上を見上げると延々と続く荒れた段差のある歩きづらい木道が目に入ってくる俗に言うバカ尾根である。帰ろうかと声が出る程きつい登りが続く。



途中で振り返ると前方に秦野市が霞んで見える。晴れていれば素晴らしい景色が眺められたのだが。

木道の端にシモツケソウの花がちらほらと見られるようになり和む。息も絶え絶えで花立山荘に到着する。相変わらずの曇り空で景色が霞んで見える。ベンチに汗で書



いた尻拓の跡を残しかき氷の旗を横目でチラッと見ながらあとひと踏ん張りだと気合を入れて頂上を目指し出発する。花立という展望のいい場所からは西の小丸尾根の斜面を真っ白なヤマボウシが咲き乱れているのが見える。最後のきつく長い木道を登りきるとようやく塔ノ岳の山頂にたどり着く。山頂は人気の山らしく大勢の人たちで賑わっていた。

天気が良ければ富士山、南アルプス、丹沢山塊、相模湾から大島等が眺められる。ここで昼食にし集合写真を撮りバス

の時間に間に合わないといけないので早々と下山を開始する。



下り始めは急なガレ場を一気に100m程下る。その後も幾つかの小ピークの登り下りを繰り返しながら新大日、行者ヶ岳へと徐々に下って行く。下りは楽だが少しの登りでも食事の後という事で辛い。

行者ヶ岳へは崖を横切り鎖場を登って

行く。その先も登下降を繰り返しながら烏尾山にたどり着く。山頂からはこれから登る三ノ塔がよく見え最後のザレ場、



ガレ場の急登が良く見えため息が出る。一旦下ってからいくつかの小さな鎖場を得て予定時間の30分で登り返した流石である。



三ノ塔の頂上からの眺望はすばらしく今日登ってきた大倉尾根、塔ノ岳、行者ヶ岳、烏尾山、そして大山、相模湾、秦野市の町が手に取る様に眺望

が楽しめる。ここまで来たらもう安心と思っていたら最後に足場の悪いガレ場、ぬかったガレ場、頭上に木の枝でトンネルのようになった道、粘土質のヌルヌルした道、等歩きにくい道が続く。暫くすると林道にぶつかりさらにそこを横切って下って行くとようやく下山口の富士見山荘につく。そこから車道をヤビツ峠のバス停に向かって最後の力を振り絞って登り返していく。



何とか最終便のバスには間に合った。下界は猛暑日になり熱中症で多くの人が搬送されたようでしたが山は幸いにも曇りで霧が出たり下山時には時折ヒンヤリとした心地よい風が吹き抜け助かった。

晴れていれば暑くてもたなかったかもしれない。筋肉痛にはならなかったけれど相当キツかったのは温度と湿度が高かったのだろう。2リットル用意した水も殆ど飲んでしまった。幸いヒルにも合わず何とか無事に縦走し下山することが出来皆さんの頑張りに感謝感謝です。本当にお疲れ様でした。

(記&写真・伊藤 久雄)

(写真提供・涌井 良明)

